

No.	募集テーマ	募集部署
1	<p><b>VR技術を活用したトレインシミュレーターの製作</b></p> <p>弊社で製作済みのトレインシミュレーターについて、現在はモニター画面と簡易ハンドルで運転体験が実施できる仕様になっているが、より没入感を得られるような仕様とし、まるで本当に運転しているかのような体験を提供したい。</p>	計画管理部 需要創出担当
2	<p><b>お子様向け体験・教育コンテンツ</b></p> <p>現在、鉄道乗車ポイント（京王トレインポイント）の交換先として、京王線沿線のお子様向けに、体験コンテンツを提供している。鉄道コンテンツはもちろんのこと、それ以外でも様々なジャンルの体験コンテンツを提供したい。</p>	計画管理部 需要創出担当
3	<p><b>定性情報を定量化する仕組みの導入</b></p> <p>駅掛員の「接客態度」や乗務員の「運転技術（電車の乗り心地）」など、現状客観的に定量分析が困難で、効果測定が明確にできない業務について、定量的に評価できる仕組みを導入したい。</p>	鉄道営業部 管理担当

# 【テーマ1】VR技術を活用したトレインシミュレーターの製作

概要	弊社で製作済みのトレインシミュレーターについて、現在はモニター画面と簡易ハンドルで運転体験が実施できる仕様になっているが、より <b>没入感</b> を得られるような仕様とし、 <u>まるで本当に運転しているかのような</u> 体験を提供したい。
背景	現行のシミュレーターがかなりコンパクトになっており、持ち運びが安易であるが、モニターがないと体験できない状況であるため、 <u>VRグラスのように画面も持ち運び可能な状態</u> にしたい。
目的	新しい技術を活用して没入感・臨場感を出し、高付加価値の体験コンテンツとしたい。
ポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・VRグラスがコンパクトであること（もしくはコンパクトなものを開発予定）</li><li>・既存のシミュレーターと連携可能であること</li><li>・出来るだけ安価であること（競合比較の明示・補助金活用も可）</li><li>・VRグラスにこだわらず、上記背景・目的が達成できる提案であること</li></ul>
今後の方向性	導入後は、鉄道乗車ポイントの体験コンテンツとして活用することや、企業向けへの販売なども視野に入れ、マネタイズを図りたい。
備考	現行プログラムはDelphi（プログラム言語）をベースにしており、ノッチ位置による車両の加減速に勾配、車両重量などの要素を加味して、動画再生速度を変化させ、加減速可変コントロールを行っている。上下左右に頭を動かすことで視点移動ができることを満たせば、出力方式については自由とする。

## 【テーマ2】お子様向け体験・教育コンテンツ

概要	現在、 <b>鉄道乗車ポイント（京王トレインポイント）</b> の交換先として、京王線沿線のお子様向けに、体験・教育コンテンツを提供している。 鉄道コンテンツはもちろんのこと、それ以外でも <b>様々なジャンルの体験・教育コンテンツを提供したい。</b>
目的	<b>鉄道コンテンツ以外</b> の高付加価値の体験・教育コンテンツの提供
課題	自社内製では、将来的に企画内容の枯渇や人工手配など、継続性に課題が発生する可能性があるため、企画・運営を任せられるパートナーを探したい。
ポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・企画、運営までの一連の流れが任せられる（実施場所は応相談）</li><li>・お子様向け（小学生）の体験・教育コンテンツを持っていること</li></ul>
今後の方向性	鉄道乗車ポイントの交換先として実績があがれば、事業共創など幅広い視点で今後の連携可能性を検討したい。
備考	京王トレインポイント専用サイト： <a href="https://www.keio.co.jp/keiotrainpoint/">https://www.keio.co.jp/keiotrainpoint/</a> 過去リリース： <a href="https://www.keio.co.jp/news/update/news_release/news_release2023/nr20240321_keiotrainpoint.pdf">https://www.keio.co.jp/news/update/news_release/news_release2023/nr20240321_keiotrainpoint.pdf</a>

# 【テーマ3】 定性情報を定量化する仕組みの導入

概要	駅掛員の「接客態度」や乗務員の「運転技術（電車の乗り心地）」など、現状客観的に定量分析が困難で、効果測定が明確にできない業務について、 <b>定量的に評価できる仕組みを導入したい</b>
背景	<b>約1,500人の現業職場</b> を管理する上で、最低限の接客態度や運転技術の基準を設けるだけでなく、指導の統一や納得感のある評価も実現したい
目的	接客態度：笑顔度や声のトーンを計測する、身だしなみを写真で取って点数化するなど 運転技術： <b>乗務員のモチベーションアップへ繋げる</b> など
ポイント	画像認識、顔認証、AI技術などを活用し、定量化する技術に長けた企業を想定
今後の方向性	同業他社への横展開など販路拡大の支援
備考	